

JRバス関東本部 第39回定期委員会

6月30日、JRバス関東本部は本部会議室にて「第39回定期委員会」を開催しました。来賓を含めて総勢39名が集結し、多くの発言のもと、それぞれの議案も無事承認され、向こう1年間の運動方針を確認しました。

2025年度役員体制 (敬称略)

議長	三瓶 嘉則	バス千葉分会
副議長	押元 匡史	バス東京分会
事務長	黒岩 和樹	バス小諸分会
常任委員	岡 修司	バス佐野分会
常任委員	根本 竜太郎	バス伊那分会
常任委員	田中 和哉	バス千葉分会
常任委員	熊谷 雅之	バス東京分会
会計監査員	志賀 清史	バス佐野分会
会計監査員	木村 信吾	バス土浦分会



各委員からは、「接触事故により大きく車両損傷が発生しているにもかかわらず、養生テープで補修して運行を継続した。安全より運行が優先されており大問題である」「これまで出来ていた迂回が突然禁止になった。遅れが常態化しお客さまへの迷惑はもろろん、車両運用等にも影響が出る」「車内で取り扱う乗車券の種類が多くそれぞれ取扱いが異なる。取扱いが煩雑となりお客さまにも迷惑をお掛けしている」「東京へ転動してきたが、東京支店の新入社員より基本給が下回っていた。バス関東本部が会社と交渉したおかげで改善され、労働組合の必要性を感じた」「本社から施策の説明に来たが、詳しい説明が無く何もわからなかった。会社に対する不信感や将来に対する不安が増した」といった多岐にわたる発言がありました。



2025年度役員体制 (敬称略)

議長	佐藤 秀一	バス白沢分会
副議長	沼崎 直人	バス盛岡分会
事務長	高橋 賢一	バス福島分会
事務次長	佐川 慎也	バス白沢分会
常任委員	斎藤 浩樹	バス仙台分会
常任委員	藤田 雅寛	バス青森分会
常任委員	小向 俊輔	バス白沢分会
常任委員	穴戸 晶	バス白沢分会
常任委員	山本 大輔	バス七北田分会
会計監査員	高橋 雅之	バス青森分会
会計監査員	山岸 弘尚	バス福島分会

7月17日、JRバス東北本部は仙台地本会議室で「第38回定期委員会」を開催しました。

これまで危機的な要員不足の中、休日出勤や転勤・助勤等に最大限協力し奮闘してきた組合員・社員の生活実感と労働実感を訴えたことで、25春闘で過去最高となる6500円のベースアップ、夏季手当でも過去最高の支給率を引き出ししてきた成果と、これからも「総合労働条件の向上」を実現し、安全・安心な職場をJR東労組の仲間とともにつくり出すことを確認しました。

また、参加した委員からは、仙台地区を中心に要員不足が深刻な状況が続く中、会社が持続的に成長していくためには人材の確保・定着が最も重要であるという危機感や、要員不足による弊害が乗務員に限らず車両整備士にも及んでいることなど職場で山積する問題、この一年間奮闘してきた想いや悩み、これからの決意など発言があり、最後は佐藤議長の力強い団結カンパローで締めくくられ、成功に終了しました。

バス東北本部は、JR東労組の原点である「抵抗とヒューマニズム」の精神を根底に、「言うべきことは言う、やるべきことはやる」を主張し、あらゆるハラスメントのない職場をJR東労組の仲間と連携しつくり出します。

新幹線協議会 第7回定期委員会

新幹線協議会は、6月28日に「第7回定期委員会」を東京地本会議室にて開催しました。近藤議長の挨拶では、昨年から列車分離をはじめ多くの事象が発生していることから新幹線の安全が脅かされていること、そして組合員自身がどんな1年であったのか振り返る必要があることが述べられました。

質疑では、過半数代表者選挙を通じた実践で組織拡大を勝ち取れた報告がありました。列車分離した列車に乗り継いでいた組合員の職場では、翌日から集会を行い、初動体制の重要性と組織的に動く必要性が述べられました。また、広域な異動により長距離通勤が余儀なくされ、早い乗務に間に合わないため前泊が多く、結果的に家族との時間が削られる等の新幹線職場の課題が出されました。協議会発足からの課題である女性設備の拡充では、前進しているものの十分ではない現実が出され、引き続き会社と議論を続けていく必要があります。

今定期委員会では、発足時より担ってきた大宮選出の磯幹事が退任し新たな仲間を迎え、近藤議長に代わって伊藤新議長となり、新たな体制となりました。



伊藤新議長を先頭に、来年度に迫る人事賃金制度や組織再編に堂々と立ち向かい、新幹線協議会は広いエリアだからこそ職場の課題に向き合い、労働組合らしく組合員の声を基に議論を重ねながら全員が働きやすい会社と社会の実現に向けて今後も運動をしていきます。

第3回JR東労組 地方ローカル線会議

6月19日、「第3回JR東労組地方ローカル線会議」を本部会議室で開催し、各地本の代表者が出席しました。

冒頭、佐々木副委員長からJR津軽線(蟹田〜三厩間)の廃線が正式に決定したことや陸羽東線において林野庁による工事が始まることなど、地方ローカル線が抱える課題について提起を受け、現状認識を合わせてきました。その後、仙台地本から5月31日に8年ぶりに開催した「旅のプレゼント」について報告を受け、「人と人が助け合う大切さ」を学ぶと共に陸羽東線沿線の方々との連携ができたことなどの成果を確認することができました。9月には盛岡地本と秋田地本が連携し、10月には大宮地本宇都宮支部が「旅のプレゼント」をローカル線沿線で開催する予定です。

地方ローカル線の安易な廃線を防ぐために地域連携を更につくり出すことを全参加者で確認してきました。

仙台地本旅のプレゼント

仙台地本は、5月31日に宮城県大崎市岩出山において「ローカル線は地域の宝・未来へ伸びるレールが地域と地域の笑顔をつなぐ」2025旅のプレゼントを開催しました。ご招待した「最上ふれあい学園」の皆さんは無人駅の清掃を継続的に続けていただいている皆さんであり、陸羽東線の市民団体「りくへんどうサポーターズ」からご紹介いただきました。

当日は全体で150名(施設関係招待者46名、組合員93名)が参加し、陸羽東線の貸切列車や、体験型美術館「感覚ミュージアム」を楽しんだほか、岩出山公民館で手作りの豚汁やイベントを満喫していただきました。招待者がイベントを心から楽しんでいた姿を見て、会社業務の中では感じることができない「人と人が助け合う大切さ」を学ぶとびにローカル線を大切に思っている方々がいることを実感することができました。ヒューマニズムの精神を基に、私たちの心を豊かにする取り組みを地域連携で創り出していきます。

